

# 勾当台・定禅寺通エリアビジョンの構成について

## 勾当台・定禅寺通エリアビジョン（中間案素案）

### 第1章 勾当台・定禅寺通エリアビジョン策定の背景・目的等

- 1. 勾当台・定禅寺通エリアビジョンについて
- 2. 勾当台・定禅寺通エリアの範囲
- 3. 勾当台・定禅寺通エリアの主要公共施設等
- 4. 勾当台・定禅寺通エリアのあゆみ

### 第2章 勾当台・定禅寺通エリアの位置付け、現状と課題

- 1. 関連計画等における勾当台・定禅寺通エリアの位置付け
- 2. 勾当台・定禅寺通エリアの現状
- 3. 勾当台・定禅寺通エリアの課題

### 第3章 勾当台・定禅寺通エリアの基本的方向性

- 1. 課題対応の考え方（都心全体の関係図を含む）
- 2. まちづくりの理念と3つの施策の方向性
- 3. 取り組みの検討の方向性
- 4. 重点ゾーンと空間イメージ（第4章から第3章へ移動）

### 第4章 勾当台・定禅寺通エリアビジョンの実現に向けて（表現修正）

- 1. 策定後の展開
- 2. 検討懇話会委員からの指摘等

### 第5章 検討経過・検討懇話会委員名簿 (検討経過と委員名簿を章分けせず一本化)

※ 下線部赤文字が素案からの追加・修正部分

○現状の整理  
 ・増加する居住者・就業者数、高い開業実績に対し、歩行者通行量は減少、歩行者滞在密度も低い  
 ・全市的な傾向として、本市における人々の移動目的に変化が見られる（パーソントリップ調査結果）  
 ⇒「通学」や「業務」目的の移動の割合は減少、「買物」や「私事（送迎、趣味・娯楽等）」を目的とする移動の割合が増加

○課題の抽出  
 ・昭和55（1980）年の歩行者通行量データ  
 ① 勾当台・定禅寺通エリア周辺（一番町四丁目商店街内）と仙台駅周辺（名掛丁アーケード内）の数値は大きく変わらず  
 ② 勾当台・定禅寺通エリア周辺の歩行者通行量のピークは平成2年（1990）年頃と判明  
 ⇒ 勾当台公園のリニューアルや地下鉄・141ビルの開業等を経て勾当台・定禅寺通エリアが大きく変わり、注目を集めていた時期と一致  
 ・今後の公・民の資産の老朽化対応においては、移動目的の変化等も踏まえながら、人々がまちに出る目的となる要素をエリアとして形成・集積していく必要があると考えられる

◎課題は「目的地化」



◎つながりと差別化

○他エリアとのつながりの中で差別化を意識、勾当台・定禅寺通エリアだけでなく、都心全体の魅力向上にも寄与



◎エリアの強みを活かす

○次のようなエリアの特色を強みと捉え、これを活かすまちづくりを展開

- ・都市イメージの集積（居心地のよさ、みどりや景観が絵になる等）
- ・盛んな文化芸術・市民活動
- ・利活用可能な公共施設・公共空間
- ・盛んな起業・開業
- ・公・民がともに築いた歴史や資産
- ・居住者数・就業者数の増加
- ・起業・開業に有利となる賃料
- 等



◎個性を伸ばす・強みをさらに強化する



◎勾当台・定禅寺通エリアのまちづくりの理念（コンセプト）等  
 （資料3に記載）